

平成22年度 多気郡管内消防団幹部訓練概要

実施日：平成22年5月30日（日） 9：30～12：00

場 所：明和町北藤原地内 下御系新漁港（雨天時：明和町中央公民館）

参加者：多気郡管内の消防団幹部（班長以上180名）

内 容：礼式訓練：通常点検

活動訓練：大規模災害対応訓練、救出搬送及び応急手当訓練

講演：ライフラインの遮断時の消防団活動、クラッシュシンドローム対策
（雨天時）

全体想定

東海・東南海・南海地震が同時に発生し、管内で甚大な被害が発生。特に明和町においては、津波警報が発令され、避難誘導を行い、最大津波の到達時間166分（津波の高さは2.34メートル）経過後町内各地域において家屋の倒壊や火災が発生しているが、松阪・伊勢方面からの災害支援が期待できないことから、三重県内消防相互応援協定によって隣接する多気町・大台町に災害地派遣の要請を行い、災害救助活動等を行うものである。

今回、消防相互応援協定の流れを基本に授援側の明和町は、各方面に指揮所を設置し、組織的な活動と情報収集の訓練を実施します。

1 火災想定

火災が同時に3ヶ所で発生。

消防水利は、地震により消火栓は使用不可で近くに消防水利がないため、海からの遠距離の中継隊形が必要である。

災害対策本場は、消防団に活動の指揮本部（本部指揮所）を設置する。さらに、方面指揮所を3ヶ所に設置、組織的活動と状況報告を指示する。

災害現場の状況変化に対応するための現状付与を行う。

消火活動中の状況変化やハプニングを伝える、現示カードを事前に作成し、訓練隊員に付与して訓練を進めていきます。

（例）

- ・火点側に照明器具や破壊器具の搬送
- ・火災現場の拡大によるホースの増結（筒先位置の移動）
- ・ホースやポンプのトラブル
- ・活動中の団員が負傷する

2 救出・搬送想定

町内のいたるところで、建物の倒壊などによる行方不明者やけが人が多数いることから活動を実施する。

現場の再現ができないので、以下のような仮想の活動で実施します。

災害対策本場は、消防団に救助活動の方面指揮所を1ヶ所に設置、組織的活動と状況報告を指示する。

状況想定

- ・救助を必要としないもの（担架、徒手による搬送）

現場到着後、ただちに救護所へ搬送する。

- ・救助を必要とするもの

木造2階建日本瓦葺の建物が全壊。

当建物には、高齢者夫婦、2名が居住、2名の行方が現在不明。

建物内に取り残されている模様（隣の住民からの情報）

活動指示

倒壊した建物を取り除くために丸太 個所を切断せよ

RC造1階建、店舗（コンビニ）が半壊。

建物には、数名の人が取り残されている模様（店、従業員の情報）

活動指示

倒壊した瓦礫を取り除くためにコンクリートを破壊せよ。

道路わきのブロック塀が倒れ、歩行者が下敷きになっている。

負傷者は、男性で意識はあるが自力脱出はできない模様。

活動指示

倒壊したブロック塀を取り除くためにコンクリート板を持上げる。

建設現場（地下2m）において、作業員が崩れた土砂により男性2名が生き埋めとなる。負傷者は、自力脱出はできない模様。

活動指示

崩れた土砂を取り除くために砂を土のう袋に詰める。

老人ホームにおいて、利用者が倒れた家具で自力脱出はできない。

閉じ込められた利用者は数名いる模様（施設従業員の情報）

活動指示

倒れた家具を取り除くためにコンクリート板を1m移動させる。

3 応急手当

災害現場において、多数の負傷者がいることから応急救護所を設置し、広域消防の救急救命士とともにトリアージ、さらに応急手当を実施する。

災害対策本場は、消防団に応急救護所に方面指揮所を設置、現場把握と負傷者関連情報の収集を指示する。

想定

事前に負傷者の怪我の状況を示したカードを作成、その状況に合わせた手当を実施する。（女性団員が実施）

4 使用資機材

消防用ポンプ積載車18台（多気町5台、大台町5台、明和町は8台）

積載車装備一式（ホース7本程度、筒先、中継金具、分岐媒介、中継送水に必要な器具） ポンプ5台による、1線中継・1線2口放水隊形

簡易救助器具（スコップ、バール、大ハンマー、のこぎり、担架）